

愛媛大学の改革に向けての取組（平成 25 年度）

「学生中心の大学」「地域にあって輝く大学」を目指して

☆ 第 2 期 重要課題 ☆

- ① 学生の人的成長に重点をおいた教育の推進
- ② 地域の発展に貢献できる国際性を備えた人材の育成
- ③ 特色ある先端的研究拠点の形成・強化

上記重要課題を念頭に置きつつ、また「**地域の発展に責任を持つ大学**」を近年のキーワードとして意識し、平成 25 年度においては、学長のリーダーシップにより主として次の 7 項目について積極的に取り組んだ。

「Ⅰ 「今後の国立大学強化に向けての考え方」を踏まえた取組」、**「Ⅱ 教育改革の推進」**、「Ⅲ 研究拠点の強化及び若手教員の育成」、「Ⅳ 社会連携機能及び地域連携の強化」、「Ⅴ 国際化への組織的整備と拠点国における国際連携の推進」、「Ⅵ 附属病院の機能拡充」、「Ⅶ 業務運営の改善」

【平成 25 年度の主な具体的施策】

I 「今後の国立大学強化に向けての考え方」を踏まえた取組

◆ 組織改革への取組

① 地域に特化した新学部の検討

ミッションの再定義を踏まえ、愛媛大学の強味・特色の観点から、各学部・研究科の入学定員の見直しと組織改編を検討するとともに、地域課題について多様な主体と協働して目標を達成でき、サーバントリーダーシップ（組織のメンバーを支援して目標達成に導く、奉仕型のリーダーシップ）を發揮できる人材の育成を目指す**地域に特化した新学部の設置に向けた検討を開始**した。



バランスに関する規則の見直しを開始した。

③ 給与制度改革

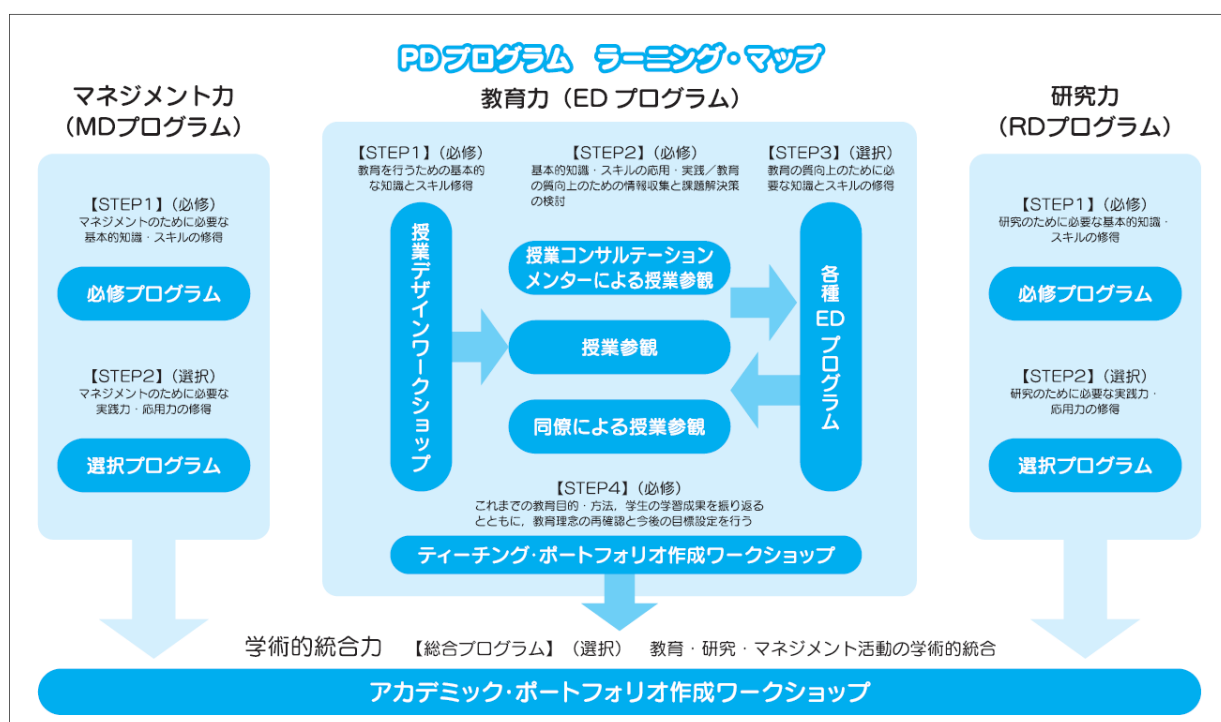
優秀な教員に対する年俸制の導入及び混合給与制度の新設に向けた検討を開始した。

II 教育改革の推進

愛媛大学は理念・目標に「学生中心の大学」を標榜しており、その実現のため第2期中期目標において「全学的に一体感のある教育改革を推進し、正課教育及び正課外教育において学生の主体的・協同的な学びを充実させる」ことを基本目標としている。その達成に向け、平成25年度においても各学部の教育コーディネーターと教育・学生支援機構教育企画室が連携を取りながら、教育改革を推進した。主な取組は以下のとおりである。

◆ 教員の能力開発に重点を置いた本学独自のテニユア・トラック制度の運用

教育・研究・管理にバランスの取れた総合力の高い大学教員を育成し、教員の流動性を高め、教員の質、ひいては教育の質の保証に資することを目的として、本学独自のテニユア・トラック制度の全学的運用を始めた。若手教員に対し、能力開発（PD：Professional Development）プログラムを実施（35研修科目を実施、延べ599人受講）したほか、その一環として国内外の研究者や文部科学省職員を招聘した国際シンポジウム「大学教育の質保証と大学教員のプロフェッショナル・ディベロップメント」を11月に開催し、本学YouTubeサイトで公開した。



国際シンポジウムの様子

■ 【能力開発（PD）プログラム】

☆ 合計 100 時間受講義務（必修 80 時間・選択 20 時間）

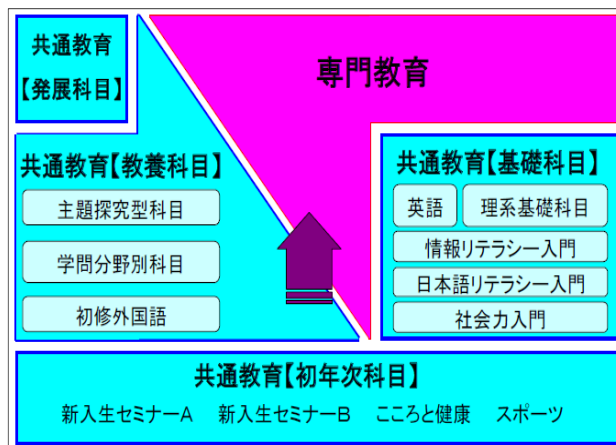
- 教育能力開発（ED）プログラム：必修 50 時間
- 研究能力開発（RD）プログラム：必修 16 時間
- マネジメント能力開発（MD）プログラム：必修 14 時間
- ED・RD・MDプログラム：選択 20 時間

◆ 共通教育カリキュラムの改編

平成 25 年 4 月に設置された「教育デザイン室」の積極的な支援のもと、共通教育の学習方法改善を図るとともに、自立した個人として生きていくのに必要な「学士力」の修得を目指し、共通教育カリキュラムを全面的に改編し、実施した。具体的には、大学生活を送る上で必要な論理的判断力、日本語表現能力を身に付けることを目的とした、新規科目「日本語リテラシー入門」を、全 1 年次生を対象に、対面授業と e-Learning を組み合わせたブレンディッドラーニング（BL）により実施したほか、アクティブ・ラーニングの手法を活用し、課題を探究する「主題探究型科目」6 単位を全学生必修とした。

回	授業形態	概要
1	対面授業	オリエンテーション/[第 1 章]文の長さ・句読点・かき受けを学ぶ/[第 2 章]単語・文・段落を学ぶ
2	eラーニング	【第 1 章】【第 2 章】の振り返り（ポートフォリオ）
3	対面授業	【第 3 章】ものごとを正しくとらえ、分かりやすく伝える 【第 4 章】資料を解釈し、説明する
4	eラーニング	【第 3 章】【第 4 章】の振り返り（ポートフォリオ）
5	対面授業	【第 5 章】仮説を立て、考えを組み立てる 【第 6 章】確かな解釈に基づき、主張する
6	eラーニング	【第 5 章】【第 6 章】の振り返り（ポートフォリオ）
7	対面授業	【第 7 章】主張を検証し、批判する
8	eラーニング	【第 7 章】の振り返り（ポートフォリオ） 最終試験及び全体の振り返り

「日本語リテラシー入門」の授業形態



共通教育カリキュラムマップ

◆ 教育関係共同利用拠点(拠点名:教職員能力開発拠点)の活動

① 「FD/SD」の推進

教育関係共同利用拠点(拠点名:教職員能力開発拠点)である本学教育・学生支援機構教育企画室が中心となり、「愛媛大学のFDポリシー」に基づき、ミクロ・レベル(授業の改善)、ミドル・レベル(カリキュラムの改善)、マクロ・レベル(組織の整備・改革)においてFDを組織的に実施した。

② SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）における研修実施

SPOD（「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」）において、本学が実施した 42 研修プログラムに、四国地区の大学・短期大学・高等専門学校を中心として、延べ 1,538 名が参加した。また、受講者の要望を受け教学IRに関する研修を新設したほか、全国でも例を見ない国公立大学の新任職員を対象とした合同新任職員研修を実施するなど、新たな取組を行いプログラムの充実を図った。

◆ 入試改革・高大連携の推進

① 四国地区国立大学連合アドミッションセンターの設置

文部科学省「国立大学改革強化推進補助金」に採択された「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」のうち本学が基幹校となり実施する「四国地区国立大学連合アドミッションセンターの設置とAO入試の共同実施」事業において、平成 25 年 5 月に愛媛大学に四国地区国立大学連合アドミッションセンターを設置し、高大接続や入試制度に係る調査研究を実施し、新しい入試制度の設計・構築に着手した。

② 女子中高生の理系への進路選択支援

女性未来育成センターにおいて、理系女子学生グループ「サイエンスひめこ」の企画・運営の下、「サイエンスプリンセスプロジェクト2013」を開催し、講演会や研究室訪問ツアー等を実施するなど、96名の女子中高生との交流を図った。さらに、高校での出張講義や大学説明会に参加する等、理系女子を増やし理系女子が活躍しやすい社会を目指して学内外で活動を行った。



理学部見学の様子



「サイエンスひめこ」による研究室案内

◆ 教育・学習成果の評価

共通教育初年次科目のうち全学生必修科目である「スポーツ」において、平成20年度から5年間をかけて成績評価の標準化（ルーブリックの作成等）を行い、それに基づいた授業運営と成績評価を実施した。また、各研究科において大学院教育における「汎用的能力」育成の観点からリサーチ・ルーブリックの策定を推進し、一部の成績評価に活用した。

第1週		第2週		第3～6週		第7～13週		第14週		第15週	
ガイダンス		体力測定		基礎的体づくり期間		発展的動きづくり期間		体力測定		まとめと評価	
1) 授業の目的、到達目標	体力測定による各自の体力の現状評価	E-fit Program (愛媛大学オリジナルフィットネス・エクササイズ) では、以下の4つの領域の運動を第3～6週にかけて実施します。		1) 各スポーツに必要なとされる基礎的スキルの練習 ・個人練習、グループ練習		学期間の各自の運動への取り組みに対する効果判定		授業のまとめとテスト		1) 自らの健康と体力への振り返り	
2) 履修に当たった留意事項	1) 上体起こし 2) 反復横跳び	A. ウォーミングアップ&クーリングダウン B. 体づくり・レジスタンストレーニング・体力向上運動 C. 心づくり・レクリエーション運動 D. 感覚づくり・コーディネーション運動		2) 各スポーツにおけるゲーム形式の活動 ・グループ活動(練習・ゲーム)		1) 上体起こし		2) 反復横跳び		2) 運動の習慣化の有用性	
3) HandBookの活用方法について	3) 1500m/1000m急歩					3) 1500m/1000m急歩		3) ライフスキルの獲得について			
4) 授業の進め方について											
5) コース分け											
共通内容		コース別内容		コース別内容		共通内容		共通・コース別内容			
成績評価の観点と評価方法	態度 (50点)	1) HandBookの記載状況について 2) 授業への取り組みについて 3) 授業への取り組みについて						5) 総括シートへの記入による各自の運動への取り組みの振り返りと今後の生活について			
	技能 (25点)	4) スポーツのスキルテスト									
	知識 (25点)							6) 小テストの実施			

「スポーツにおける」授業内容の標準化及び評価方法の概念図

◆ 大学院課程への教育コースの設置

理工学研究科及び4先端研究センター（沿岸環境科学研究センター、地球深部ダイナミクス研究センター、プロテオサイエンスセンター、宇宙進化研究センター）の教員の力を結集し、世界レベルの研究者育成体制を構築することを目的として、理工学研究科（博士後期課程）に「先端科学特別コース」を新設し7名の入学者を受け入れた。また、日本第一の水産養殖生産地である愛媛県南予地域からの要請

を受け、水産養殖の発展に貢献できる専門知識・技術を持つ人材の育成を目的として、農学研究科に「海洋生産科学専門教育コース」を新設し2名の学生を受け入れた。

理工学研究科(博士後期課程)先端科学特別コース	
分野	基礎となる研究センター
環境科学分野 (環境動態学, 環境化学, 環境生物学)	沿岸環境科学研究センター
地球・宇宙科学分野 (超高压地球科学, 数理地球惑星物質学, 銀河進化学, X線天体物理学)	地球深部ダイナミクス研究センター 宇宙進化研究センター
生命科学分野 (感染分子科学, 光生命科学, 分子生命科学, タンパク質機能科学)	プロテオサイエンスセンター

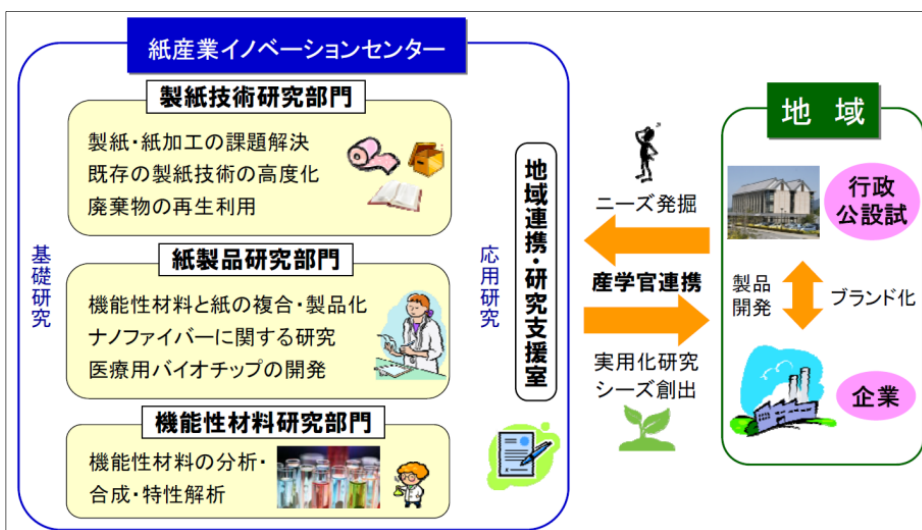
Ⅲ 研究拠点の強化及び若手教員の育成

第2期中期目標の基本目標における「環境・生命に関わる世界レベルの研究を一層活発に展開するとともに、質の高い多様な研究を進展させる。」ために、平成25年度に行った主な取組は以下のとおりである。

◆ 研究拠点の強化

① 紙産業イノベーションセンターの設置

次世代の紙産業界を発展させる多様なシーズを生み出すための研究機能と、企業や公的機関と連携して、研究成果を紙産業界にフィードバックする社会連携機能を強化した総合的な研究拠点を形成することで、開発した新技術や先端研究の実用化を促進することを目的として、紙産業イノベーションセンターを平成26年4月に設置することとした。



センター設置に関する記者会見の様子

② プロテオサイエンスセンター及び農学部附属食品健康科学研究センターの設置

生命科学から医学応用にわたる国際的拠点を目指し、3領域（プロテオリサーチ領域・プロテオメディシン領域・プロテオイノベーション領域）からなる「プロテオサイエンスセンター」を平成25

自治体数 合計 12) するとともに、社会連携推進機構の社会連携コーディネーターが協定締結先と愛媛県内の経済団体へ定期的に訪問し、情報収集及び意見交換を行い、連携活動を推進した。また、[ダイキ株式会社と連携協定を締結](#) (締結先企業数 合計 12) し、企業等との産学連携を推進した。



西予市との連携協定調印式



西条市との連携協定調印式



ダイキ（株）との連携協定調印式

② 愛媛大学宇和島エクステンションの設置

地域活性化等を目的とした連携協定を締結している宇和島市から「宇和島産業未来創造センター」の無償貸与を受け、南予地域における学生のフィールド教育や社会人教育の拠点とすることを目的として、[教育施設「愛媛大学宇和島エクステンション」を設置](#)した。



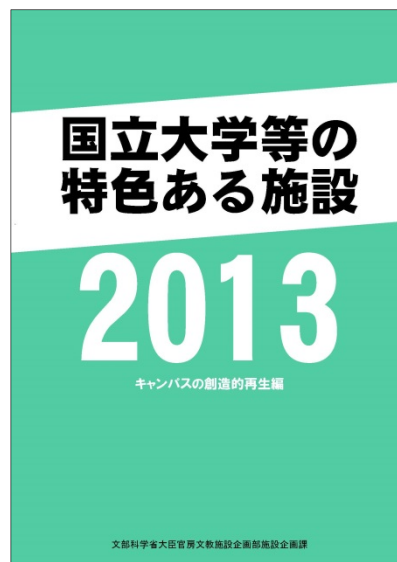
宇和島エクステンション開所式の様子

◆ 教育研究成果の社会への発信

愛媛大学ミュージアムにおいて、企画展示計画に基づいた企画展示、「第4回三輪田米山展」等の特別展示を行い、平成25年度は延べ20,609名の入場者を集めた。同ミュージアムは、文部科学省が公表した[「国立大学等の特色ある施設2013」](#)に紹介された。



ミュージアム館内の様子



V 国際化への組織的整備と拠点国における国際連携の推進

第2期中期目標の基本目標における「国際社会で活躍できる人材を育成するとともに、アジア、アフリカ拠点国への教育研究支援を進める。」ために、平成25年度に行った主な取組は以下のとおりである。

◆ SUIJI プログラムの推進

文部科学省に採択された「日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム」(SUIJIプログラム：愛媛大学・香川大学・高知大学・ガジヤマダ大学・ボゴール農業大学・ハサヌディン大学)において、第1期受入れ学生5名(修士課程)を対象とする、ジョイント・ディグリー・プログラムを実施するとともに、平成25年9月修了の学生2名及び留学修了の日本人学生1名の研究成果報告会並びに修了式を開催した。また、日本からの派遣学生8名について、インドネシアの受入大学側のジョイント・ディグリー・プログラム実施に関する環境を整備した。



修了式の様子



インドネシアでのプログラムの様子

◆ 拠点国における国際連携の推進

平成21年3月にルリオ大学(モザンビーク共和国)と愛媛大学間で締結した学術交流協定を更新するとともに、モザンビーク共和国大統領府において、安倍晋三内閣総理大臣とゲブーザ大統領の立ち会いの下で、ルリオ大学、モザンビーク共和国教育省、独立行政法人国際協力機構(JICA)及び本学の4機関による学術交流協定の調印を平成26年1月に行い、同国北部の発展に貢献するため、協働で取り組むこととした。



ルリオ大学との調印の様子(4機関による学術協定への署名)

VI 附属病院の機能拡充

◆ 医療の質向上と地域との連携強化

- ・ 入院前から退院後までの効果的・効率的な総合的患者サポートの実現を目的として、平成 25 年 11 月に総合診療サポートセンターを設置した。
- ・ 御遺体を使用した手術手技向上に寄与することを目的として、全国初となる手術手技研修センターを平成 25 年 12 月に設置し、医師や医学生を対象に 34 回（延べ受講者数 545 名）の研修を実施した。
- ・ 高度の人工関節医療の提供、次世代人工関節の研究開発の推進及び人工関節手術に携わる医師・看護師等の技能向上を目的として、平成 26 年 1 月に人工関節センターを設置した。
- ・ 形成外科全般にわたる医療の提供、各診療科の連携によるチーム医療の実現及び県内外の病院と連携した形成外科専門医の養成における中心的な役割を担うことを目的として、平成 26 年 1 月に形成外科センターを設置した。

VII 業務運営の改善

◆ 組織の再編と新たな雇用制度の創設

平成 25 年 4 月にハラスメント防止対策室を設置し、人権侵害防止のための啓発・研修活動を組織的・計画的に行った。また、機動的で活発な広報活動を行うため、事務組織であった「広報室」を専任教員を含む教職協働体制に改編した。さらに、高年齢者雇用推進室において新たな再雇用制度を検討し、定年退職職員に年俸制を導入し、職責に応じた処遇とするとともに、ライン職に配置することとした。

◆ ステークホルダーとの協働

第 3 期中期目標期間に向けた愛媛大学の機能強化の観点から、新学部検討ワーキンググループを設置し、学内員 10 名に加え、経営協議会委員 1 名を含む 3 名の学外員を置き、地域ステークホルダーとの協働による人材育成の議論を開始した。

◆ 広報活動の工夫改善

各学部等の特色を社会に分かりやすく印象付けるとともに、大学としての一体感を高めることを目的に、各学部等のイメージカラーを設定し、今後の広報活動等で活用することとした。

◆ 施設設備の整備・活用

学生、教職員及び地域住民が集い、活動し、憩う場づくりを目的として策定した「城北キャンパス環境整備計画」に基づき、正門から多目的広場に至るグリーンベルト（約 15,000 m²）の工事計画を策定した。

国立大学法人評価委員会からの評価結果に対する対応


平成24年度に係る業務実績について、国立大学法人評価委員会から、

- (4) その他業務運営に関する重要目標 に関し、
平成24年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。

とされ、中期計画の達成のために向けておおむね順調に進んでいると評定された。

このことから、学長のリーダーシップの下、担当理事を中心として、指摘を受けた事項に以下の通り対応した。



【指摘に対する対応策】

教員等個人に対して寄附された寄附金の取扱いについて、教育研究評議会で報告を行うなど周知徹底を行ったほか、会計ハンドブックの改訂及び研究費使用ハンドブックの作成を行い、教員個人に対する研究助成金について大学への寄附手続きを励行するよう周知した。

また、平成25年度から全教員を対象として「研究費の適正使用に関する確認書」の提出を義務づけ、徹底している。